

1. 評価結果概要表

作成日 2009年 3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400322		
法人名	社会福祉法人 ことぶき福祉会		
事業所名	グループホーム ことぶき園		
所在地	島根県出雲市塩冶有原町1-15 (電話) 0853-23-1071		

評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 9年 4 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造かわらぶき 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小規模多機能老人ホームとして21年前に開設し、その運営理念はグループホームでも継承されている。「人は人間らしく笑顔で暮らす権利がある」というケアテーマがあり、人間らしく自立(自律)した生活を援助できるように職員育成に力を入れている。併設の小規模多機能、デイサービスと一体的に運営しており、職員は全体を把握し、利用者も自由に行き来できるようにしている。開設時から終の棲家の方針があり、重度の人にもきめ細やかな援助でホームの生活を継続させている。併設のデイサービス利用を経ての入居が多く、利用者および家族と馴染みの関係が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>全面改築して2年近く経ち、臨機応変に小さな空間作りをしたり低いテーブルを用意するなど利用者の状況に合わせて工夫をし、生活感のある住まいにしている。運営推進会議の持ち方や地域向け広報紙の再開など課題は残している。改善課題以外で重度者が多くなり、入浴方法や食事、楽しみのある暮らしなど工夫し、個人の尊厳、ケアの充実を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>併設の小規模多機能、デイサービスを一体的に運営しているが、自己評価は主にグループホームを担当している職員で行い、話し合っている。また、新任の職員にとって先輩職員から教えてもらう機会にもなっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>小規模多機能ホームと合同で開催し、家族代表、近隣、あんしん支援センター(地域包括)、出雲市役所からの参加があり事業所の実践状況や福祉をとりまく社会情勢など話し合い、意見交換している。外部評価についても報告をしている。3ヶ月に1回の開催を目安にしている。法人は地域に根ざした福祉活動の長い歴史があり、地域密着型サービスについて市と話し合う機会も多い。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪は多く、近況を伝えたり相談を受けたりしている。家族会がありほとんどの参加があるので意見を聞いている。法人全体で家族アンケートも実施している。出された意見を報告したり、個別に回答し、運営に反映させている。今年の正月は外出デイを設け、重度の人でも家族と相談しながら自宅で過ごしてもらうことができた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>街中の道路に面し、民家風の建物で、近隣と20年以上のつきあいが定着しており、餅つきなど行事に参加してもらったり園で収穫した玉葱をおすそ分けするなど日常的な交流がある。食事作りボランティアも長年来所しており、地域住民に園の取り組みが知られている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「どのような障害を抱えようとも住み慣れた地域のなかで安心して暮らせる社会をめざす」ことを理念に掲げ、小規模多機能型老人ホームとして21年前にスタートしている。ケアテーマ、ケア方針があり地域密着・小規模・多機能の福祉を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、ケア方針のもと、人間愛を大切にした職員育成、ケアの質の向上をめざしている。日々の申し送りや職員会議で話し合いを繰り返し、実践の中で学びあうようにしている。ことぶき新報でも園長が所感で理念や園の方針を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	街中の道路に面し、民家風の建物で、近隣と20年以上のつきあいが定着しており、餅つきなど行事に参加してもらったり園で収穫した玉葱をおすそ分けするなど日常的な交流がある。食事作りボランティアも長年来所しており、地域住民に園の取り組みが理解されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	併設の小規模多機能、デイサービスを一体的に運営しているが、自己評価は主にグループホームを担当している職員で行い、話し合っている。また、新任の職員にとって先輩職員から教えてもらう機会にもなっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能ホームと合同で開催し、家族代表、近隣者、あんしん支援センター（地域包括）、出雲市役所からの参加があり事業所の実践状況や福祉をとりまく社会情勢など話し合い、意見交換している。外部評価についても報告をしている。3ヶ月に1回の開催を目安にしているが遅れることもある。	○	地域と相互理解が広がるように2～3ヶ月に1回程度の開催ができるように工夫してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人は地域に根ざした福祉活動の長い歴史があり、地域密着型サービスについて市と話し合う機会も多い。地域福祉の充実、サービスの質の向上に向けてグループホームとは何かなど積極的に話し合えるようになっていく。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付時に「ことぶき新報」と写真を数枚一緒に渡している。ことぶき新報には毎月園長の所感が掲載しており、家族にとって事業所の方針、考え方などを知る機会となっている。家族の来訪は多く、近況を伝えたり相談を受けたりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がありほとんどの家族の参加があるので意見を聞いている。法人全体で家族アンケートも実施している。出された意見を報告したり、個別に回答し、運営に反映させている。今年の正月は外出日を設け、家族と相談しながら一時帰宅を実現させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者をはじめ勤務経験の長い職員が多く、又、利用者とはデイサービス利用から入居する人が多いので継続した関わりができていく。新規採用となった職員は日勤で利用者の様子がよくわかるようになってから、先輩職員と一緒に夜勤に入るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長、施設長は明確な福祉の理念や方針があり、人間愛、感性豊かな職員の育成に取り組んでいる。法人内の研修だけでなく、日々、利用者から学んでいくことを大切にしている。外部の研修については職員に情報提供し希望を取り入れているが、感性を磨く研修を選んで参加をすすめている。資格取得も勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しまね小規模ケア連絡会で事業所同士で研鑽の機会を持てるようリードしている。昨年は地元で全国大会を開催し、多くの事業所職員が実践レポート発表できる機会も作っている。出雲市グループホーム連絡会の研修会にも職員が交代で参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用を経て入居する人が多い。顔なじみとなってからの入居で心身の状態を把握し、思いを受け止めており、本人が納得してから入居できるようにしている。入退居は少なく、この1年間、新たな入居はなかった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として常に教えてもらうという気持ちで接している。味付けなども聞くと喜ばれるので、1～2歩下がって聞き、話してもらうようにしている。一人ひとりの様子や表情を見、共に笑ったり楽しんだりするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	デイサービス利用時から本人の思いを受け止めている。呟きや表情から日々の意向を把握するようにしている。好きなことや経験、特技の発揮など本人にとっての最良を考えている。センター方式の暮らしのシートも活用し、得られた情報を順次補充している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングや毎月のケース会議で話し合っている。利用者の思いや家族の意向を把握して、よりよい暮らしとなるよう気づいたことや必要な援助を話し合い、ケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、ケース検討会議で生活全般の経過を話し合い、ケアプラン表の評価・反省欄と検討会議録に記録をしている。ケア内容は適宜変えているが、目標はほとんど変わらず、ケアプラン表の見直しや家族の確認が長期間になっているケースが多い。	○	ケア内容は現場で細やかに変更をしているが、ケース検討会議録や評価欄にも変更経過も記録し、次回の見直しに連動する記録が望まれる。状況が変わった場合には家族や関係者と話し合っているが、ケアプラン表の見直しもおこなってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎日、小規模多機能やデイの利用者と自由に交流でき、本人の意向に沿った生活スタイルが取れるようにしている。今年の正月は重度の人にも短時間でも帰宅ができるよう最大限の支援をしている。医療連携体制があり終末期まで見る体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどがかかりつけ医の往診を受けられるようになっており、通院する場合も家族付き添い、ホーム対応など柔軟に対応している。主治医にホームの様子を理解してもらい、終末期についての理解、協力も得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針があり、重度化や終末期への対応をしている。終末期となっても食事、入浴、数時間の帰宅など細やかなケアの工夫をし、医師や家族の協力も得て穏やかな日々を援助している。最近死亡された人は重介護の状態が1年ぐらい続いたが、家族と共に支え、亡くなる1週間前までホームで過ごすことができた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に人権を徹底して守ることを明示しており、人権尊重はケアの中で繰り返し伝え、職員も常に意識している。排泄や入浴は同性介助を基本としているが、利用者の希望も聞いている。個人記録はスタッフルームや事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の人が多く、ホールで一緒に過ごす時間が多い。表情や会話の中から希望を察し、歌や散歩など楽しみを取り入れている。起床、食事時間も本人のペースにあわせている。小規模多機能ホームと自由な行き来もある。移動に車椅子が必要な人も食堂では椅子で寛げるようにして入る。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は主に小規模多機能の厨房で行っているが、利用者はご飯や汁の盛り付け、食器洗いなど役割發揮している。見守りや介助の必要な人が多いが、テーブルの高さやスプーンなども工夫し、なるべく自分で食べられるようにしている。職員はゆっくり介助をしながら同じ食事を一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度の人も2名介助で浴槽に入れるようにしている。シャワーチェアに座位が困難となった人にはボンボンベッドを利用するなど終末期まで入浴できるよう工夫をしていた。ラジオ、柚子湯、菖蒲湯などお風呂を楽しめるようにしている。重度者が増え、夜間の自由入浴ができなくなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	経験や特技など把握し、生活の場で発揮してもらうようにしている。和菓子があるとお茶の先生だった人に抹茶をたててもらったり、英語の先生だった人はTシャツの英語を教えてもらっている。意思表示が少ない人は表情から思いを察し、歌や散歩など取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよいと1対1や2～3人で散歩に出かけるようにしている。小規模多機能やデイサービスの利用者が作っている畑があり、さつま芋や大根の収穫も楽しめる。美術館、喫茶など希望で出かけている。採光のよい和室や中庭があり、気軽に日光浴もできる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。小規模多機能との行き来も自由である。徘徊など現在ないが、普通の暮らしを追求し、自己決定、拒否権の保障を徹底しており、近隣の理解、見守りもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、避難経路、一次避難場所も決めている。緊急時用に拡声器、懐中電灯などは用意している。地域にホームの存在は知られており、また職員、家族も近いので緊急時の応援は得やすい。現在喫煙する利用者はいないが、職員は火の元に気をつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの利用者の状況を把握し、咀嚼、嚥下状態、食材に応じてその都度、刻んだりペーストにしたりトロミをつけている。見守りや介助の必要な人が多いが、朝食は起きられた人から食べてもらうので時間差がありゆっくりできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一昨年建て替えたが、外観、内部とも民家風の造りで共用空間は採光に工夫し、こじんまりしている。ホールのテーブルの位置を変えて小さな空間を作ったり、こたつや火鉢を置くなど臨機応変な対応している。古ダンス、季節の花、雛飾りなど生活感がある。小規模多機能、2階のデイサービスなど好きなところで過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電動ベッド、木製ベッドなどホームで用意しているが、鏡台やダンスなど馴染みの物を置き、それぞれが自分の部屋らしく使っている。重度になり自室で一人で好きなことをして過ごされる時間が少なくなっている。本人がいない時に窓を開け、換気するようにしている。		